

地元NPOの科学実験教室 鈴木文科副大臣が視察



ボランティア活動について高校生と話し合う鈴木寛副大臣（左）

文部科学省の鈴木寛副大臣は11日、帯広北高で、小学生対象の体験型学習プログラム「放課後おもしろサイエンス」を視察した。

講師や同校生徒のボランティア4人とともに、ポリ袋を熱気球のように宙に浮かせる実験を行った。

脱脂綿を袋の下に固

定し、アルコールを浸

して火を付けると袋の

中の空気が暖まって上

昇、子供たちは歓声を

上げた。

このプログラムはNPO法人・教育支援協会北海道（帯広）が実施し、十勝管内の児童29人が参加。同法人の

実験の様子を見守り、生徒と懇談した鈴木副大臣は「学校ではなく、NPO主導の『新しい公共』の取り組みを応援したいと思って来た。生徒たちは保育士など人と触れ合う仕事に就きたいと話しており、こうした活動を通じて進路についても学んでいる」と述べ、取り組みによるさまざまな効果を評価していた。

（星野真）

学校帰りに もう少し：

池田の小学生

文省委託事業 放課後まなびい

育支援協会北海道「(帯広)が共同受託。管内では中札内でも行われている。

【池田】子供たちの学力向上を目指す放課後活動「放課後まなびい」が今月から町高齢者コミセンで始まり、学校帰りの児童が元気いっぱいに学んでいる。文科省の委託事業で、来年1月末まで毎週木曜日の夕方に開かれる。

国の「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業を、町と道教委、NPO「教

育支援協会北海道」(帯広)が共同受託。管内では中札内でも行われている。小学1～6年生が対象で、池田では現在、池田小の7人が参加。学力向上をテーマとした活動で、同NPOが算数や漢字、英語など、プリントや教材を使った学年に応じたプログラムを用意し、講師を派遣している。

17日も同NPOの内山晶子さんから2人が来町。ブロックを使って図形を空間的に把握



「放課後まなびい」で机に向かう子供たち

する練習や、漢字のプリントなどを指導した。子供たちはそれぞれのペースで学習に取り組み、漢字の音読み、訓読みテストに合格すると、「やっ」とクリアできた」とほしゃいでいた。

内山さんは「自発的にやってみようという意欲を育てたい。集団の相乗効果で集中力につながっている。学校と異なり、学年が交じっているのので、上の子のまねをしたり、教え合ったりする交流もある」と話している。

冬休みには理科実験も予定している。定員20人。問い合わせは同NPO(0155・33・3033)へ。

(小林祐己)